

大阪国際空港と共生する都市宣言

有馬山 いなの笹原 風吹けば

いでそよ人を 忘れやはする 〈後拾遺和歌集 大弐三位〉

さわやかに歌われ、江戸時代には酒づくりで栄え、多くの文人墨客が訪れた、古い歴史と文化を有する“わがまちいたみ”

昭和39年6月1日、大阪国際空港に初めてジェット機が就航し、増え続ける騒音は市民の静穏な生活を脅かした。

静かな空を取り戻すための運動は大きく広がり、昭和48年10月1日、わたしたちは「大阪国際空港撤去都市」を宣言した。

ときには寝食を忘れた、30年をも超える人々の真摯な努力と騒音軽減への取組みが、平成2年の「存続協定」を経て、今日、ようやく空港との共存・共生への道をひらこうとしている。

都市の個性・魅力を高め発揮する時代にあって、地域活力の向上をはかるため、わが国の基幹空港である本空港を、市街地空港の模範として、一層効果的に活用することが求められている。

今こそ、人とまちが輝くために、引き続き安全・安心な生活環境の確保に万全を期すとともに、人・モノ・情報の交流拠点である空港を、地域の振興とまちの発展に重要な役割を果たす地域資源として最大限にいかし、夢と魅力のあるまちづくりを進めなければならない。

ここに、伊丹市を大阪国際空港と共生する都市とすることを宣言する。

平成19年4月1日

伊 丹 市